

冬まつり

2月、雪国ならではの伝統行事や小正月行事が仙北市内各地で行われました。これらの冬まつりには、地域のぬくもりと、そこに暮らす人々の祈りが込められています。



白岩城址燈火祭

2月8日、白岩平城を会場に行われました。午後6時、雲巖寺の鐘の音を合図に白岩小学校の児童や国際教養大学の学生らが中世白岩家城址「館山」参道や本町通りのかがり火計500個や近世平城跡の200個のミニかまくらに火を灯し、白岩の栄華を光で再現。また、打ち上げ花火、火振りかまくら、綱引き大会などが行われ、会場は大いに盛り上がりました。

ならか

2月14日、仙北市役所田沢湖庁舎前を会場に行われました。生保内地区に古くから伝わる小正月行事。「ならか ならねか・・・」と唄いながら、火の付いた稲わらを振り回して害虫を追い払い、五穀豊穣を祈願しました。30年くらい前までは各集落で行われてきた行事ですが、一時期完全になくなるもの、その後当時の旧田沢湖町職員らが集まって地域の学校の協力のもと開催にこぎつけています。

中里のカンデッコあげ

2月14日、中里賽之神堂前（松木内字中里）で行われました。カンデッコとは、朴の木で作った小型の鍬のことで、これとくるみの木で作った男根を一对にしたものを神木である桂（市指定天然記念物）に豊作や縁結び、家内安全などの願いを込めて投げ掛けました。狙いどおりに掛かると願いがかなえられると言われ、またその掛かったものはずして栗や柿等の果樹に掛けると多くの実を結ぶと伝えられています。

上桧木内の紙風船上げ

2月10日、西木町紙風船広場で行われ、大勢の人で賑わいました。100年以上の歴史をもつ伝統行事で、幅1メートルほどの和紙を貼り合わせ、約6メートルにもなる、武者絵や美人画などが描かれた巨大紙風船を約100個準備。揚力源となるタンポ（石油を染み込ませた布玉）に火が灯され、その年への思いや願いが天に声が届くようにと真冬の夜空に打ち上げられました。

火振りかまくら

2月13日に桜並木駐車場で、14日は角館町の各町内会場で行われました。炭俵に1メートルくらいの縄を結び、その俵に火を付けて自分の体のまわりを振り回します。およそ400年の歴史を持つ旧暦の小正月行事の一つで、田んぼの厄を払うとともに、家族の無病息災や家内安全など、一年の無事を祈願しました。13日は海外からの観光客も大勢参加しました。

松葉・相内の裸参り

2月16日、松木内字松葉で行われ、15人の若者がふんどしひとつで松木内川で身を清め、松葉の金比羅神社に無火災を祈願しました。明治10年にこの地域で火災が2度起こり、度重なる災難から集落を守るため四国の金比羅宮に無火災を祈願しました。帰村後、地域の中央にある旭山に祠堂を建立し、金比羅宮をかたどったお室とお礼をまつりました。以来、無火災祈願の裸参りが行われています。

田沢湖高原雪まつり

2月22日と23日に、たざわ湖スキー場特設会場で開催されました。会場には12体の雪像が並び、ビニール袋で会場特設コースを滑り降りる「けつちぞり大会」も大盛況。ご当地キャラも大集合し会場を盛り上げました。22日の夜には、火振りかまくらや紙風船上げなどの仙北市の冬のイベントが行われたほか、打ち上げられた花火が冬の夜空を彩りました。

